

「高崎ユネスコ協会創立 50 周年記念式典・祝賀会」開催

令和元（2019）年 11 月 30 日（土）、午後 1 時よりホワイトイン高崎において開催されました。式典には県内各ユ協、来賓、顕彰者など 136 名が参加し、記念講演一般開放による 13 名も来場し盛大に行われました。

【オープニング～50 周年記念スライドショー～】



オープニング・スライドショー

高崎ユネスコ協会の創立から現在に至るまでの大まかな歴史を約 30 分間、写真、各種文字資料、インタビュー動画等の映像で振り返った。映像に即したナレーションや当時流行った音楽をバックに挿入することで歴史への臨場感が増した。初代会長松山武郎氏の「治にいて平和を忘れるな」の言葉が全編に渡って繰り返し提示されたのが印象に残った。

【式典】

まず全員でユネスコの歌を斉唱。次に高崎ユネスコ協会会長串田昭光があいさつを行い続いて高崎市教育長、高崎市議会議長、群馬県ユネスコ連絡協議会会長らによる来賓祝辞があった。引き続き来賓紹介および祝電披露が行われた。



串田会長挨拶



市民部長より表彰される功労者

次に市民部長より 9 名の功労者が表彰された。

続いて串田会長より 34 団体・個人に感謝状

が贈呈された。最後に須田洋光顧問が受賞者を代表して謝辞を述べた。

【記念講演】



鈴木越夫氏による講演

元かみつけの里博物館長鈴木越夫氏が、「『堤ヶ岡飛行場』と映画化にまつわる話」と題して講演を行った。まず 20 分ほど映画のダイジェスト版を視聴した。続いて、鈴木氏の母校である群馬中央中学校が「堤ヶ岡飛行場」の兵舎であったことから、「戦時下に生きた青少年の体験記の収録」が始ま



った経緯が話された。映画化は、地域の人たち約 40 人へのインタビューや住谷家の「村日記」を組み合わせることにより完成した。戦時中に堤ヶ岡飛行場が急遽建設されるに至った経緯や堤ヶ丘飛行場で訓練し沖縄沖へ出撃した特攻隊誠隊、さらに前橋空襲の悲惨な思い出などが映画の主要な題材となっている。

祝賀会は、16時半より同じホワイトイン高崎内別会場にて、101名の参加者により、和やかにまた盛大に行われました。

【祝賀会】



高崎木遣り保存会<粹和会>

「高崎木遣り保存会<粹和会>」の華やかな木遣り披露で祝賀会が始まった。



華やかな木遣り

高崎ユネスコ協会会長串田会長のあいさつ、高崎市長、群馬県ユネスコ連絡協議会会長、高崎市中学校長会長らによる祝辞があった。続いて来賓紹介。そして高崎ユネスコ協会元会長福村平八郎氏が乾杯の御発声を行った。そして和気あいの祝宴となった。



高崎市長祝辞



群馬県ユ連会長祝辞

中締めを高崎ユネスコ協会参与の佐々木治氏が行い、閉会のことばと続き、全日程を終了した。